

尿路結石症—その治療の変遷—

大阪大学医学部泌尿器科学教室（主任：園田孝夫教授）

園 田 孝 夫

特 別 発 言

上部尿路結石の治療技術の変遷について、それぞれの分野における第一人者の講演を拝聴できたことに感謝の意を表す。また、治療後の再発予防についても薬物および食餌の両面より詳細に論じられ、特に中部地区のレベルの高さに対して敬意を表わした。

しかし、「尿路結石症」は患者の個々について、治療前に詳細な原因究明が必要であり、現在ではあらゆる結石の65%はその原因を明らかにしえることを忘れてはならない。尿路結石は全身性疾患、代謝・内分泌異常症、あるいは局所性疾患の単なる一合併症にすぎないことを認識すべきである。単に結石除去の技術のみに走ることなく、基礎的研究の継続・推進により結石形成の機構を種々の観点から、また種々の段階で解明することこそ長期的視野に立っての尿路結石治療効果の向上ならびに再発防止につながる大切な課題であることを強調した。

（1989年3月16日受付）